

A photograph of a nurse in a light blue uniform pushing a gurney down a long, brightly lit hospital hallway. The hallway has a polished floor that reflects the overhead lights. The nurse is in the foreground, slightly out of focus, moving towards the right. The hallway extends into the distance with doors on both sides.

人間として。 看護師として。

“看護”とはいったい何だろう。

その答えを出すことは、簡単ではないかもしれない。

しかし大雄会の80年という歴史には、

数えきれないほど多くの、患者さまと看護師とのつながりがあった。

そこにどんな思いがあり、どんな悩みがあり、どんな感動があったのか。

ひょっとするとそこに、「答え」が隠されているかもしれない。

人間であることと、看護師であること。

二つは時として、同じ意味を持つ。

なぜなら“看護”とは、人と人との間にだけ存在する行為なのだから。

あなたにしか、



看護師を目指すあなたに私たちが望むのは、あなたが“あこがれ”の気持ちだけではなく

「医療のスペシャリストになる」という覚悟を持ってこの世界の扉を開くこと。

それはつまり、看護師として“自立”することである。

誰にも頼らず誰とも対等に議論し、一人で考え一人で行動する。

時には厳しいと感じることもあるだろう。

しかし、この場所でならきっと、あなたにしかできないことが実現できるはず。

私たちは、そのためのサポートを決して惜しまない。

できないこと。

看護部の理念

“主体性のある”看護へ。

看護師には感性・知性が豊かであることが求められるとともに、患者さまが安心して療養できるよう、他職種との調整を図りながら業務に主体的に取り組むことが望まれている。それは言い替えるならば、一人ひとりが本当の意味で自立すること。私たち看護部は、患者さまの状態を自分の目で見て自分の頭で考えて看護に取り組むことのできる看護師の育成を目指している。

看護体制

“安心”を提供する、固定チームナーシング。

一般病棟I群、入院基本料1（2:1）。看護方式は固定チームナーシングを取り入れている。固定チームナーシングとは、患者さまに対して責任を持って継続した看護を提供することを目的に、一定期間内固定したメンバーがチームを編成して看護を行うシステムのこと。患者さまに対して、きめの細かいサポートと大きな安心を提供することができる看護方式である。



勤務体制

大雄会から生まれた2交替制。

当院の勤務体制は、日勤・夜勤完全分離型2交替勤務体制。看護師一人ひとりがライフスタイルに合わせて勤務形態を選択できるこの制度は、実は大雄会から生み出されたシステム。このような2交替勤務体制を他病院では「大雄会方式」と呼んでいる。この制度の施行によって、さらに質の高い看護サービスを安定的に提供することが可能となった。

教育計画

臨床での実践能力を向上させる、教育体制。

看護師教育においてもっとも強く求められているのが、実践能力を向上するための教育体制の整備。大雄会では専門的な看護技術や高度な医療機器に対応できる知識・技術の育成に力を注ぐとともに、勉強会・研修会・学会など院内外での活動を支援している。またパーソナルカードの使用によって個々の能力を開発できるシステムを構築。それぞれの職場で相談しながら目標を設定し、達成状況を確認することで、一人ひとりの成長をフォローしていく。

看護部の理念

“主体性のある”看護へ。

看護師には感性・知性が豊かであることが求められるとともに、患者さまが安心して療養できるよう、他職種との調整を図りながら業務に主体的に取り組むことが望まれている。それは言い替えるならば、一人ひとりが本当の意味で自立すること。私たち看護部は、患者さまの状態を自分の目で見て自分の頭で考えて看護に取り組むことのできる看護師の育成を目指している。

看護体制

“安心”を提供する、固定チームナーシング。

一般病棟I群、入院基本料1（2:1）。看護方式は固定チームナーシングを取り入れている。固定チームナーシングとは、患者さまに対して責任を持って継続した看護を提供することを目的に、一定期間内固定したメンバーがチームを編成して看護を行うシステムのこと。患者さまに対して、きめの細かいサポートと大きな安心を提供することができる看護方式である。



勤務体制

大雄会から生まれた2交替制。

当院の勤務体制は、日勤・夜勤完全分離型2交替勤務体制。看護師一人ひとりがライフスタイルに合わせて勤務形態を選択できるこの制度は、実は大雄会から生み出されたシステム。このような2交替勤務体制を他病院では「大雄会方式」と呼んでいる。この制度の施行によって、さらに質の高い看護サービスを安定的に提供することが可能となった。

教育計画

臨床での実践能力を向上させる、教育体制。

看護師教育においてもっとも強く求められているのが、実践能力を向上するための教育体制の整備。大雄会では専門的な看護技術や高度な医療機器に対応できる知識・技術の育成に力を注ぐとともに、勉強会・研修会・学会など院内外での活動を支援している。またパーソナルカードの使用によって個々の能力を開発できるシステムを構築。それぞれの職場で相談しながら目標を設定し、達成状況を確認することで、一人ひとりの成長をフォローしていく。

昭和61年	看護専門学校卒業
〃	総合大雄会病院入職
平成元年	同退職、他病院へ転職
平成8年	結婚のため退職
平成10年	愛知淑徳大学文学部コミュニケーション学科入学
平成12年	大雄会老人保健施設「アウン」へ介護支援専門員として入職
平成14年	同退職
〃	愛知淑徳大学文学部コミュニケーション学科卒業
〃	藤田保健衛生大学大学院保健学研究科看護学領域入学
平成15年	認定心理士資格取得
〃	大雄会第二医科学研究所入職、遺伝子カウンセラーをめざす
平成16年	藤田保健衛生大学大学院保健学研究科修了、保健学修士取得



そばにいてくれるだけで。

平成8年、専業主婦の道を選んで結婚退職した石川を、運命の大きな波が襲った。それは、結婚したばかりの夫の病。病名はがんだった。余命は3ヶ月。夫は、治療を受けることを拒否した。その時、石川は自問自答した。妻として看護師として、いったい自分に何ができるのだろうか、と。何をしてほしいかを尋ねる石川に、夫は答えた。「何もいらない。そばにいてくれるだけでいい」。その言葉は、石川がそれまでに持っていた看護観を一変させた。

看護への熱い思い。

夫の死後、石川は深く悩んだ。果たして以前と同じように看護の仕事が続けていけるのだろうか。復職することには抵抗を感じた。そして石川を選んだのは、今までとは違う世界に飛び込むことだった。大学に進み、以前から興味があった心理学を学んだ。その後、大学院に進学した石川。テーマとして選んだのは“看護”だった。医療の一部としてではなく自立した一つの領域として、あらためて看護と向き合ってみたいと考えた。学問として看護を学ぶこと。それは、自分が経験してきた看護というものを、科学的に裏付ける作業でもあった。そして何よ

り石川の中には、看護への拭いきれない熱い思いがあった。

平成15年、再び転職が訪れた。大雄会が遺伝子検査を開始するのに伴い、遺伝子の研究に携わることになったのだ。現在は第二医科学研究所に在籍。遺伝子カウンセリングのスペシャリストを目指して研究を続けている。医学の中でも遺伝子は、極めてデリケートな領域。それだけに、正確な情報提供と患者さまとのコミュニケーションが重要視される。石川の持つ知識と経験に対する周囲の期待は高い。

人生の真ん中に看護がある。

看護の現場にいた頃、ただ患者さまと会話をするためだけに病室を訪ねることがしばしばあった。石川は、患者さまとの触れ合いをもっとも大切にしてきた。一人ひとりの患者さまを知ることが、良い看護へのスタートラインだと考えるからだ。患者さまに対して医療における“正論”を当てはめないことも、石川のこだわり。可能な限り、患者さまが望むことを提供するよう心がけている。なぜなら、心の満足に決まった答えなど存在しないのだから。それは、夫の死が教えてくれたこと。石川にとって“看護”は、今でも人生の真ん中に存在したままだ。

「心の満足に決まった答えなどない」。夫の死が変えた、看護観。



石川和美



平成16年 看護専門学校卒業

◇ 大雄会第一病院入職

◇ 岐阜医療技術短期大学助産学専攻入学

平成17年 同卒業



大雄会の“国内留学制度”を利用して 見つけた、自分の進むべき道。

看護の一分野としての「助産」。

看護学校卒業後、大学の助産科への進学を希望した。しかし大学の助産科は倍率が高く、なかなかの狭き門。指導教諭は丹羽に、いったん就職先を決めた上で大学を受験することを勧めた。その時就職先として選んだのが大雄会だった。しかしその後、大学から合格の知らせが届いた。

入職を断ろうと連絡した時に知ったのが、大雄会の“国内留学制度”。丹羽は迷わずその道を選択した。大雄会の職員として、1年間“休職”という形で大学に通ったのだ。

看護師の勉強をした後、さらに別の分野の勉強をすることは大変ではないか、と聞くと丹羽は「助産もあくまで看護の一分野。看護をさらに深く学んでいるだけ」と首を振った。

女性の一生を支える仕事。

助産師の仕事は、“赤ちゃんを取り上げる”ことはもちろん、妊娠期の世話から出産後のケアまで多岐にわたる。さらに、新生児・乳幼児に対する地域での保健指導や更年期を迎えた女性へのケアも、助産師の重要な仕事。まさに“女性の一生を支える”仕事である。

丹羽の心に今も焼き付いているのは、実習で経験したある妊婦との触れ合い。貧

血で悩んでいたその妊婦に食品指導をするにあたり、どんな食品をとればいいのか、自分で絵を描いて表にまとめた。「すごく助かりました」という言葉を聞いて、これからもっとがんばろうと思った。

実習では、実際に10例のお産を取り、出産後のケアに取り組んだ。いろんな人といろんな会話をし、マンツーマンで向き合った。実習を経験し終えた今、丹羽は「自分のやりたいことはこれだ」という確かな手ごたえを感じている。

一人ひとりと向き合うことの大切さ。

現在、丹羽が力を注いでいるのは、「妊娠期の健康維持」と「母乳推進」という2つのテーマの研究。一人ひとり違った生活環境の人に対し「どういう指導をすれば妊娠期を楽しく過ごすことができるのか」「どんなケアをすれば母乳が出やすくなるのか」を考えることが面白いという。大学を卒業した後も臨床の現場でさまざまな経験を通し、さらに研究を深めていきたいと考えている。

丹羽は医療に関わる者として、そして一人の人間として、コミュニケーションの大切さを実感している。患者さまの立場で看護することで初めて、医療技術を生かすことができると考えているからだ。「一人ひとりと向き合っていける助産師になること」。それが丹羽の目標だ。



丹羽春菜

自分の視点で見つめ続けた、
医療の世界。
目指すは、「看護」を
夢のある仕事にすること。



吉矢富美子

高校時代の夢は、医療ジャーナリスト。

吉矢にとって看護の世界は、もともと望んで選んだ道ではなかった。高校時代の夢は、看護大学で知識を身につけ医療分野のジャーナリストになること。母親が看護学校の教師をしていた関係で吉矢は、過酷な労働条件の下で働く若い看護師の姿を目にしていた。当時はそれが当たり前とされていた時代。自分がジャーナリストになって、そんな看護の実態を明らかにしようと思ったのだ。ところがそんな矢先、父親の健康面での理由で受験を断念せざるを得ないことに。吉矢が選んだのは、看護学校に進み看護師として経済的に自立する道だった。

医療を側面から見つめていく。

「大学へ行こう」。そう決めたのは、入職して3年目のこと。医療というものを自分の視点から見つめる中で、医療の周辺についての知識を深めていこうと考えたのだ。日本では発展していない医療制度が、なぜアメリカでは発展しているのか。バックグラウンドに何があるのか。それを知るために、法学部を選んだ。

昼間は看護師として勤務し、夜間大学へ通う生活。病院は、朝7時半から夕方4時まで働けば通常勤務扱いとすることを認めてくれた。

吉矢にとって、大学での4年間はとても楽しいものだった。何より病院とは別の世界を持つことで、これまで自分が行ってきたことを論理的に裏付けることができた。それが看護の仕事を行う上での判断基準となり、同時に大きな自信へとつながった。

現在も吉矢は、医療経済学の博士課程に在籍中である。医療経済の変遷が看護の発展に果たした役割について研究している。あくまで医療というものを側面から見つめ続けていこう。そう考えた末に、吉矢は学び続ける道を選択した。

看護師を“夢のある仕事”に。

「病院で働くということは、人間の生と死に関わり続けること。同時に人の人生に大きな影響を与えることである」。吉矢は今、後輩の看護師に対し“医療に携わることの覚悟”の必要性を伝えている。

吉矢が目指すのは、看護師という職業を“夢のある仕事”にすることである。「そのためにもっとも必要なのは、看護師自身が変わること」。ただ看護師という仕事にあこがれるだけではなく、目標に向かって一歩ずつステップアップしていく。そんな自立した看護師を育てるために、吉矢は今、全力を注いでいる。

そしてそれは、18歳の吉矢が抱いた夢を、医療の現場から実現していくことに他ならない。



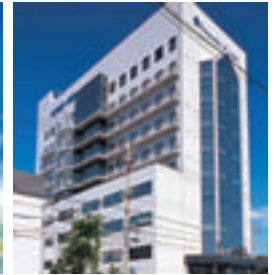
昭和57年	看護専門学校卒業	平成9年	看護部教育委員会委員長
〃	医療法人大雄会入職・脳外科病棟勤務	〃	シンガポール研修
昭和59年	名城大学法学部法学科入学	平成10年	看護管理室付婦長
昭和60年	救急外来・総合外来勤務	〃	アメリカ研修
昭和61年	主任昇格	平成11年	日本看護協会教育担当研修会受講
昭和63年	脳外科病棟勤務	平成12年	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 医療経済学博士課程入学
平成2年	愛知県看護教員養成講習会受講		
平成3年	婦長昇格	平成13年	大雄会第一病院総婦長
		平成16年	第一看護部部長

確かな医療体制で、地域の健康をあらゆる面からサポート。

大雄会の大きな特徴の一つが医療体制の幅広さ。「総合大雄会病院」「大雄会第一病院」「大雄会桜分院」では急性期医療機能を、「大雄会クリニック」では外来機能をと、それぞれの施設の機能・設備を生かした医療体制で、地域のみならず、健康をあらゆる面からバックアップしています。また、訪問看護ステーション、在宅介護支援センターを擁する「老人保健施設アウン」や、新生訪問看護ステーションを擁する「音羽デイサービスセンター・アウン」など、老人福祉・医療への取り組みにも力を注いでいます。さらに「大雄会第二医科学研究所」では最新の医療技術を追究し、医学の新たな可能性を開いています。私たち大雄会はこれからも、地域医療貢献を目指し、常に最良の医療技術と設備を患者さまのために提供し続けていきます。



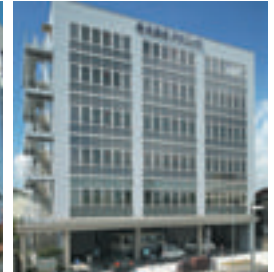
総合大雄会病院 (※2005年度完成予定)



大雄会第一病院



大雄会桜分院



大雄会クリニック

法人概要

●開設年／1924年9月 ●理事長／伊藤伸一

総合大雄会病院 ●院長／中北武男 ●看護部 局長／日比野夕美江

大雄会第一病院 ●院長／伊藤伸一 ●第一看護部 部長／吉矢富美子

●職員数／1006名 (内看護職員数：396名)

●看護体制／一般病棟1群、入院基本科1 (2:1看護) ●看護方式／固定チームナースィング (継続受け持ち方式)
●病床数／454床 ●診療科目／内科、循環器科、消化器科、放射線科、小児科、外科、呼吸器外科、泌尿器科、肛門科、耳鼻咽喉科、眼科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、麻酔科、精神科、心療内科、歯科、歯科口腔外科、形成外科、産婦人科、リハビリテーション科 ●付属施設／脳卒中センター、創傷ケアセンター、透析センター (79床)、健診センター (人間ドック6床) ●関連施設／大雄会桜分院、大雄会クリニック、老人保健施設アウン、訪問看護ステーション・アウン、新生訪問看護ステーション・アウン、一宮市在宅介護支援センター・アウン、音羽デイサービスセンター・アウン、大雄会第二医科学研究所

募集要項

- 募集人員／50名 ●応募資格／看護師、助産師、保健師の資格のある方および資格取得見込みの方
- 応募方法／必要書類 (写真付き履歴書、成績証明書、卒業見込み証明書、健康診断書) を郵送
- 選考方法／筆記試験・面接 (日時は追って連絡いたします) ●面接日程／8月中旬より随時開催
- 勤務体制／日勤、夜勤完全分離型二交替制 (一部三交替制実施)
(日勤／8:30～17:15 夜勤／16:30～9:30)
夜勤専従者は16時間勤務を週2回のみ実施 (実働32時間／週)
- 給与 (平成17年3月実績)

初任給	基本給	主要手当	合 計
看護師 (3年課程・短大卒)	206,400	60,155	266,555
看護師 (大学卒)	215,200	61,419	276,619

- 休日休暇／完全週休2日制、年間休日122日。ほかに年次有給休暇、慶弔休暇、産前産後休暇、育児休暇等あり
- 昇給／年1回 ●賞与／年3回 (2004年度実績5.5ヵ月) ●退職金／勤続2年以上の者に支給
- 社会保険／各種社会保険完備 ●職員宿舎／全室個室、冷暖房完備、キッチン、バス、トイレ付
- 福利厚生／職員旅行 (海外や国内の数カ所から自由選択)、英会話教室
- 採用実績校／名古屋大学、岐阜大学、神戸大学、愛知医科大学、名古屋市立大学、愛知県立看護大学、岐阜県立看護大学、三重県立看護大学、福井県立看護大学、宮崎県立看護大学、岐阜医療技術短期大学、川崎医療短期大学、名古屋中央看護専門学校、伊勢保健衛生専門学校、西神看護専門学校、大阪医専、本渡市立看護専門学校、他
- 交通案内／JR名古屋駅から東海道本線尾張一宮駅下車、または名鉄名古屋本線名鉄一宮駅下車 (名古屋駅からの所要時間は15分)、各駅から病院までは徒歩15分

※助産師は高給優遇します ※基本給／本俸、勤務手当、努力手当 ※主要手当／夜勤 (配属3ヵ月を経過後、能力に応じて勤務) 手当、時間外手当 (20時間) 住宅手当 (世帯主) ※他にも「B勤務手当」「C勤務手当」「早出手当」「通勤手当」等があります

■2005年度業界研究会 (病院見学会)

多くの学生さんにとって「人生初」のイベントとなる就職。良識ある社会人、理想の看護師を目指すにあたって「最初の職場」というのは皆さんの人生において非常に重要なポイントとなります。当院では単なる職場見学会ではなく、これからの就職活動においてどのような視点を持って職場 (病院) を選んでいくべきかということについて当院人事課のスタッフ (元・経営コンサルタント) より講演させていただきます。

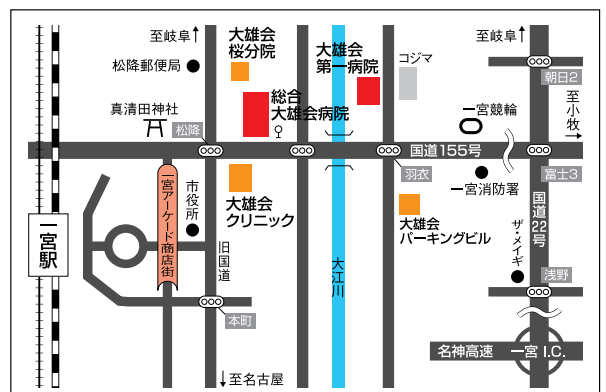
当院への就職を検討されている方はもちろん、自身の理想の就職先を真剣に探そうと考えている方も是非ご参加下さい。(昨年も同様の研究会を実施、多くの学生さんからご好評をいただいております)

【参考情報 (昨年の業界研究会テーマ)】

- 「職場選びの成功ポイントについて」
- 職場選びに失敗する人の「共通点」とは
- 民間病院にしかできない医療とは
- 最初に入った職場では何を学ぶべきなのか

【開催日程】

7月27日 (水)・8月3日 (水)・8月10日 (水)
8月24日 (水)・8月31日 (水)・9月3日 (土)



医療法人 **大雄会 総合大雄会病院・大雄会第一病院**

〒491-8551 愛知県一宮市桜一丁目9番9号 医療法人大雄会 人事広報部人事課 看護師採用窓口

TEL.0586-72-1211 (内線2633・2634)

URL: <http://www.daiyukai.or.jp/> e-mail: recruit@daiyukai.or.jp